

予防、診断、治療、フォロー、サポート。
すべての患者に対して、標準的な治療・ケアが適用できるわけではありません。
様々な合併症、薬剤の相互作用、心理的サポートの介入時期、
患者ニーズへの対応、医療経済的問題……。
がん診療では、そのほとんどのケースにおいて、個別性が前提となっています。
標準治療の少し先を考えるためには、
現場に即した「問い」と異なった視点による「答え」を知ることも必要ではないでしょうか。
Q&Aは企画者が設定しました。
Clinical Questionに対して、エキスパートが視点の異なる考えを提示します。

View-point

がん診療

「胃がん」

Q&A企画：馬場英司（九州大学大学院医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座）

Answer：伊澤直樹
（聖マリアンナ医科大学 臨床腫瘍学講座）

竹下茂之
（日本赤十字社長崎原爆病院 消化器内科）

仁科智裕
（国立病院機構四国がんセンター 消化器内科）